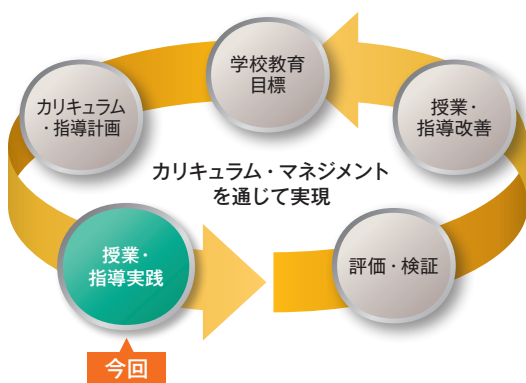


改 革 事 例

**地域連携を重視した「総合的な学習の時間」を中心に、
 イノベーターを育てる教育活動の実現を目指す**

岡山県立瀬戸高校



◎「尚学・自主・健康・協調」を校訓に、学区に根ざした進学校として、“自ら学ぶ生徒”“リーダーシップを発揮する生徒”“表現力のある生徒”の育成を目指す。第12回キャリア教育に関する文部科学大臣表彰受賞。

◎設立 1909(明治42)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約160人(全日制)

◎2018年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、北海道大、大阪大、岡山大、九州大、大阪市立大、岡山県立大などに37人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大、岡山理科大などに延べ183人が合格。

◎URL <http://www.seto.okayama-c.ed.jp/>



図1 「瀬戸高 6つの力」

① 受けとる力

- ・聴く
- ・メモする

② 伝える力

- ・言葉で伝える
- ・記述する
- ・プレゼンする

③ つながる力

- ・仲間とつながる
- ・地域とつながる
- ・世界とつながる
- ・考えと考えをつなぐ

④ 考える力

- ・論理的思考力
- ・批判的思考力
- ・課題を解決する

⑤ 見つける力

- ・課題を見つめる
- ・強みを見つめる
- ・新たな価値を見つめる
- ・発想する

⑥ より良くなるようにする力

- ・向上心を持つ
- ・学び方を学ぶ
- ・価値を学ぶ

*学校資料を基に編集部で作成。

**総合的な学習の時間において
 育成を目指す資質・能力を定義**

岡山県立瀬戸高校が、総合的な学習の時間(以下、総合学習)に、地域での学びを取り入れたのは2016年度。前年度に赴任した乙部憲彦校長が、「真面目だが受け身がちな生徒に、地域での活動を通じて自信をつけさせたい」と考え、1学年の総合学習の改革に着手した。「初年度は『地域調べ・地域貢献』をテーマに、シンキングツールなどを活用して地域の魅力や課題を確認しながら、地域にどのような発信や

貢献ができるかを考えさせる取り組みにしました」(乙部校長)

総合学習における活動内容は、教室内で行われる発想法や発表方法の学習、地域に足を運んでのフィールドワークなど、多岐に及んだが、具体的な活動とともに「伝える力を手に入れよう」「比べる力を手に入れよう」などと、「手に入れた力」も明らかにし、生徒に伝えた。乙部校長は、生徒の出身中学校がある自治体すべてに足を運び、行政に協力を要請。21人のゲストを招いた「地域振興関係者を囲む会」を開いて、意見交換と生徒たちの活動成

*「学校教育デザイン」とは、本誌が2017年度6～12月号の特集で提唱した、「学校教育目標からカリキュラム・指導計画の策定、授業・指導実践、その評価・検証、授業・指導改善までの一連のサイクルが、カリキュラム・マネジメントを通じて実現される学校改革の営み」のこと。

果の発表を行った。

「地域振興関係者からは、『地域をともにつくっていくために、高校生にもっと地域について調べ、深く考えてほしい』と、率直な要望もいただきました」(乙部校長)

広範な地域との連携を土台に、翌



校長
乙部 憲彦
おとへ・のりひこ

教職歴34年。同校に赴任して5年目。



教頭
三澤 宏之
みさわ・ひろゆき

教職歴32年。同校に赴任して4年目。



教務課長
那須 仁司
なす・ひとし

教職歴30年。同校に赴任して8年目。



指導教諭
絹田 昌代
きぬた・まさよ

教職歴28年。同校に赴任して3年目。進路指導課。



3学年主任
古市 秀治
ふるいち・ひではる

教職歴25年。同校に赴任して4年目。



2学年担任
景崎 大喜
かげさき・だいき

教職歴4年。同校に赴任して5年目。進路指導課。

17年度、1年生の総合学習は、「セト☆ラボ(地域研究室)」とネーミングされ、さらに改革が進められた。その中心となったのは、17年度から赴任した絹田昌代先生だ。

「セト☆ラボの『☆』は、自らを『陰キャ』という生徒を輝かせたいという思いを表しました」(絹田先生)

絹田先生は、総合学習を軸に学校として生徒に育成を目指す資質・能力「瀬戸高 6つの力」を定義した(図1)。その際、よりどころになったのが、前年度の総合学習の中で明記された、活動を通して手に入れた力や、校訓、学校経営目標だ。それは、総合学習を教育活動の中核として位置づけるための作業だったと絹田先生は振り返る。

「本校の生徒は真面目でコツコツと努力するタイプですが、生徒自身の自己評価では、『シャイ』『地味』と、必ずしも前向きなものではありません。生徒も、変化の激しい時代に『真面目でおとなしい』だけでは駄目だと分かっているのです。そんな生徒の気持ちに答えながら、思いきってイノベーションを起こす教育をデザインしたいと思ったのです。まず、それを実現するために、育成を目指

す資質・能力を管理職とともに検討しました」(絹田先生)

翌18年度からは、「瀬戸高 6つの力」を学校経営目標に明記し、学校で育成を目指す資質・能力として校内外に周知している(図2)。

地域の視点も借りながら 生徒の資質・能力を見る

総合学習は、現在、次のような内容で各学年、展開されている。

・1年次「セト☆ラボ」 「未来をよりよくするために地域の課題を知ること」をテーマに、フィールドワー

クを含む探究的な学びを展開。地域振興関係者から地域の課題や魅力、今後の展望などを聴き取り、地域課題の解決方法などをポスターセッションで提案する。

・2年次「S☆ラボ」 「2030年を見通した地域の課題について、学問分野、SDGs(*1)から何を考えるか、提案できるか」をテーマに探究的な学びを展開。学びたい学問領域と地域課題をSDGsでつなぐために、SDGsに先進的に取り組む岡山大学の教員の講義や企業ワークを行ったりしながらチームで

図2 学校経営計画と育成を目指す資質・能力(19年度)

1. 実現しようとする本校のビジョン(将来像、目指す姿)

- ① 上級学校へ進学できる学力と社会人として必要な6つの力を身につけた生徒の育成(受けとる力・伝える力・つながる力・考える力・見つける力・より良くなるようにする力)
- ② 主体的な学びを身につけ、自信を持ち意欲的に行動することができる生徒の育成
- ③ 実践的コミュニケーション能力を身につけ、健全で良好な人間関係を築く生徒の育成
- ④ 地域の方から支持され、将来にわたって、郷土・地域に貢献できる生徒の育成

2. 具体的な学校経営目標 ()は校訓

瀬戸高ならではの特徴ある取り組みを進め、これからの社会に必要な6つの力を育成する(受けとる力・伝える力・つながる力・考える力・見つける力・より良くなるようにする力)

- ① 授業改善を進め、各教科の指導を通して、生徒の主体的な学びを実現する。(尚学)
- ② 生徒が自らの価値に気づき、自信を持って意欲的に行動し、より良くなるようにする力の育成を行う。(自主)
- ③ 活気溢れ、健全で良好な人間関係を築き、その関係を基にした実践的なコミュニケーション能力の育成を行う。(健康)
- ④ 地域との連携を進め、郷土・地域の将来を考え、地域貢献を行う力と社会変革の担い手として、イノベーションを起こす力の育成を図る。(協調)

*学校資料を基に編集部で作成。

*1 Sustainable Development Goalsの略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。

追究する(図3)。地域課題に貢献できる提案をK P法(*2)を用いて発表する。

「自分の気づき、仲間の言葉、岡山大学の講義などがつながり新しい価値を見つけた瞬間、生徒の顔が輝きます。そのひらめきをよりよくするために地域、大学に出かけるようになった時には、チームは自走し始めています」(絹田先生)

・3年次「D☆ラボ」1、2年次の活動を卒業後の進路につなげる探究的な進路学習を展開。「D」はDream・Discover・Designの頭文字で、自分の夢を見つけデザインするといった意味を込めている。自身の進路実現と結びつけながら志望理由書や自己推薦書を作成する。

1年次の活動では特に「受けとる力」の育成が重視されるが、それは、受け身がちであることを生徒が持つよさとして認めた上で、次の段階に進んでもらいたいという学校の願いが込められている。そのため、地域行政の関係者や地元新聞社の記者などの話を聴き、ひたすらメモをしていくことから活動は始まると、3学年主任の古市秀治先生は説明する。

「地域課題と言っても、生徒が知っ

ているのは過疎化、少子化の言葉の意味くらいで、自分の住む町でそれがどのように行進し、どんな影響が暮らしに生じているのかまでは分かっています。現状を知るためには、話を聴いて受けとる力が必要だと考え、メモの取り方や話の聴き方を学んでいくようにしたのです」

「6つの力」は年に2回、ルーブリックを基に生徒が自己評価する。地域の人々にもルーブリックは公開されているため、他者評価に外部の視点も加わっている(図4)と三澤宏之教頭は説明する。

「文化祭、体育大会などの活動の冒頭に校長が『今日は6つの力のうち、特に「つながる力」を意識しよう』などと生徒に呼びかけるのですが、それを聞いた地域の方が生徒に対して『今日は大きな声で挨拶ができているね』『二つの異なる考えをうまくつなげることができたね』などと声をかけてくださる場面も目にするようになりました」(三澤教頭)

「6つの力」を生徒に強く意識させるため、2学年担任の景崎大喜先生は、総合学習の指導案を生徒に配布している。

「事前にグループリーダーの生徒

図3 総合的な学習の時間におけるSDGsの視点例

Seek 探究する
私たちの未来は 私たちで変えられる
集まれ！イノベーター！瀬戸高は想像以上に楽しい！！

瀬戸高 × SDGs
瀬戸高校はSDGsの学びを通して6つの力の育成に力を入れています！その取り組みの一例を紹介します。

受けとる力 (8年次)
子どもを持つお母さんたちにアンケートしたら「子連れ出勤したい」って！未来をつくるのはBaby。岡山トヨタ社長に「子連れ出勤」共感していただきました！

つながる力 (12年次)
「お肌ピチピチチ」(落ちた桃を有効活用できるんじゃないか説)
岡山大学田口教授 × SDGs × ストライプインターナショナル × 日本オーブ × 冬美白
とってもかわいいハンドクリームを作ったよ！
大学でカネ・ヒト・モノをつなぐ経済を学びたい！

考える力 (13年次)
「防災CAN DO!」で被災地岡山から発信することを考えました
英訳・韓国語訳・中国語訳・タイ語訳で海外の方にも防災意識の大切さを伝えたい。

赤磐市長・岡山市長・真庭市長と商談！
新中庭季節にも、この景治あめで気分・髪分を補給してください！

地域と強く結びつきながらスタートした瀬戸高校の「総合的な学習の時間」は、現在、SDGsの視点も取り入れている。持続可能な世界を実現するための17の目標を地域の具体的な課題と関連づけ、その解決方法などを提案。さらに地域の企業と協働して新商品開発やブランドづくりなどへと発展させる。生徒にとっては、地域を変えるイノベーターとして成長を遂げる機会となっている。

*学校パンフレットをそのまま掲載。

*2 紙芝居プレゼンテーション法。公益社団法人日本環境教育フォーラムの川嶋直氏が開発した思考整理とプレゼンテーションの手法。



資質・能力の育成を 意識することで 自分の授業にも変化が

景崎大喜先生

総合学習の改革が始まった3年前、校内だけでなく校外の人とも教師がつながることで、学校全体が変わっていくエネルギーが生まれることに感動しました。私自身は、人を動かしたり、人とつながったりすることがそれほど得意ではありませんでしたが、岡山大学の研究者や企業の方々と連携しながら、伝える力や受けとる力を生徒と同様に高めていったと思います。

育成を目指す資質・能力が明確になったことで、数値化できない力をどのように評価するかを日々考えるようになりました。総合学習でのプロセス評価の仕組みづくりも学び始めていますが、担当する数学の授業でも、ただ解答を書かせるだけではなく、なぜその定理を使うのかといった理由を説明させることが増えるなど、自分の授業の変化を実感しています。

各教科でも資質・能力の 育成に向けた授業改善に着手

総合学習から始まった「6つの力」の育成は、各教科の授業のあり方にも変化をもたらして始めている。同校では、若手教師14人が教科横断で4チームを形成して授業改善に取り組みプロジェクトを19年度からスタートさせた。具体的には、知識構成型

に指導案を渡し、その日のどの活動でどんな資質・能力が育まれるのかを説明し、各活動が円滑に進むように役割を与えています。生徒自身が資質・能力を意識することで、各活動の質が高まります」（景崎先生）

ジグソー法（*3）、STEAM教育（*4）など、生徒の主体的な学びを促し、「6つの力」の育成に寄与すると考えられるテーマをチームで研究し、特定の教科で公開授業に臨むという取り組みだ。

「総合学習で生徒が発想豊かに活動できるよう、ジグソー法を始め様々な手法を導入しました。それらの多くが教科の授業でも活用できると気づいた若手教師が自主勉強会を開くようになり、やがて組織的な授業改善へと発展していきました」（三澤教頭）

教務課長の那須仁司先生は、「教科の枠を取り外したことで、『6つの力』の育成という目標を明確にした

ことが、従来の授業改善の動きとの大きな違いだ」と語る。

「年2回の公開授業では、単元目標に加え、態度目標として『6つの力』のどれを重視して授業を展開するかを明らかにします。『6つの力』の育成を明確にすることで公開授業に参加した教師の授業のあり方に直接的に影響を与えます」（那須先生）

プロジェクトメンバーの景崎先生も、「授業を見る際に、『6つの力』のどの力の育成を重視している授業なのかを知ること、授業を見る視点が定まる」と話す。同校では現在、一部の教科で「6つの力」のルーブリックの作成も始まっている。

生徒のレポートに「地域は自分たちで変えられる」といった言葉が見られるようになるなど、生徒は自身をイノベーターとして大きく変えている。資質・能力の育成を意識した同校の取り組みがさらに多くの教科で展開していくことで、生徒の成長は一層加速していくだろう。

導かれた道標

育成を目指す資質・能力を地域と共有し、
教科を超えて育成することで生徒を大きく育てる

図4 ルーブリック

総合学習では、育成を目指す「6つの力」のルーブリックを作成。ルーブリックは、地域からの参加者が生徒の様子を評価する際にも提示され、生徒の活動を理解する材料として活用されている。

* 学校資料をそのまま掲載。ルーブリックの全文は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME →教育情報→高校向け」をご覧ください。

*3 ジグソーパズルを解くように、協力して全体像を浮かび上がらせる協調学習法の1つ。ある課題について、複数の視点で書かれた資料を読む「エキスパート活動」、そこで得た知識を交換し、考えを深めていく「ジグソー活動」、全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」の3つの活動から成る。
*4 STEAM教育は、科学 (Science)・技術 (Technology)・工学 (Engineering)・芸術 (Art)・数学 (Mathematics) に重点を置いた教育、人材育成のこと。